

## 議 事 録

- 1 会議名 第1回さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 日 時 平成27年4月28日(火) 9時30分～12時10分
- 3 場 所 さぬき市志度保健センター2階大会議室
- 4 出席者 ( 委員 )  
 安岐委員 朝倉委員 岩村委員 公庄委員 佐藤委員 多田委員  
 福家(弘)委員 福家(良)委員 三井委員 六車委員 山名委員  
 ( 市 )  
 大山市長 菊池副市長  
 総務部政策課 白井課長 津村係長
- 5 傍 聴 3名
- 6 会議次第 1 開会  
 2 市長挨拶  
 3 自己紹介  
 4 議事  
 (1) 座長・副座長の選任について  
 (2) さぬき市人口ビジョン及び総合戦略の策定について  
 (3) 東京一極集中を是正し、さぬき市の活力を維持・向上させるための  
 アイデアについて(意見交換)  
 5 事務連絡  
 6 閉会
- 7 配布資料 ○ さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿  
 ○ 第1回さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議資料(150428)  
 ○ 「小さな拠点」イメージパンフレット

### 8 議事の経過及び発言要旨

< 開 会 > ( 9 : 3 0 )	
事務局	<挨拶> <市長による委嘱状の交付>
事務局	会議に先だちまして、委員の皆さまに会議を公開することについて御了解をいただきたいと思う。いかがか。
全委員	<了解>
事務局	それでは、この会議は、公開することとする。  <傍聴者呼び込み>
事務局	只今から、第1回さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催する。開会に

	あたり、さぬき市まち・ひと・しごと創生本部長であります、さぬき市長 大山茂樹よりごあいさつを申しあげる。
市長	<挨拶> ※公務のため中座
事務局	委員の皆さまは今回が初顔合わせとなりますので、一言ずつ、簡単に自己紹介をお願いします。
各委員	<自己紹介>
事務局	<欠席委員（石川委員）・副市長・事務局紹介>
事務局	それでは議事に入る。議題1、座長と副座長の選任について。 有識者会議設置要綱第5条第2項の規定に座長は委員の互選により定めることとなっている。いかがか。
委員	<意見なし>
事務局	特にご意見がなければ、事務局の案を申しあげる。 事務局としては、座長を多田委員にお願いしたいと思いますが、いかがか。
委員	<異議なし>
	それでは、座長を多田委員にお願いします。 また、副座長は、設置要綱第5条第4項において、座長に事故があるときは、あらかじめ座長が指名する委員がその職務を代理する、とあるので、座長に副座長を指名いただきたいと思う。多田座長、いかがか。
座長	さぬき市は農業が基幹産業なので、第1次産業代表の六車委員にお願いしたいと思う。  それでは、拍手をもってご承認をお願いします。
委員	(一同拍手)
事務局	それでは席の移動をするので3分の休憩をとります。  <休憩>
事務局	それでは再開する。正副座長を代表して多田座長に挨拶をお願いします。
座長	<挨拶>
事務局	これからの進行は座長にお願いします。
座長	わかりました。まず、本日の会議ですが、11時30分を目途に終了したいのでご協力ください。 それでは、議題2 さぬき市人口ビジョン及び総合戦略の策定について、事務局は

	説明してください。
事務局	<説明>
座長	<p>私たちの役割は、さぬき市が戦略を取りまとめる中で、市の提案に+αを違う視点でのアイデアを提言すること。スケジュールが厳しいので、スピード感が重要となる。まずは6月までに皆さんのアイデアを事務局に出してほしい。ただ、委員は、様々な立場で出席しているので、提案内容の重複や関連を持たせるなど、整理する作業も必要で、その調整もこの会議の役割と考えられる。地方創生なので、実行可能でインパクトのあるものを1つでも盛り込めるよう、私からお願いしておきたい。</p> <p>時間もだいぶ押しているので事務局への質問は各自でお願いするとして、次の議題に入る。東京一極集中を是正し、さぬき市の活力を維持・向上させるためのアイデアについて意見交換したいと思う。このテーマにこだわらなくても、こういうことをすれば市が元気になるのではないかという観点でも結構なので御発言ください。</p>
委員	<p>これからはどこも人口減少に入る。東京に出ていなくても地方で生きていけることを考えていく必要がある。出生率を高めることも必要であろうが、さぬき市の良さ、海と山などの活用をもっと考え、発信していくべき。</p>
委員	<p>雇用の場、安心して働き続けられる環境づくりがもっと必要。若年社員の離職率の高さが気になる。労働法令の遵守のPRをすべき。さぬき市が行っている結婚定住奨励金制度は県内でも珍しいし、面白い取り組みだと思うので、拡充してもいいのではないか。人材のザイは財産の財だと思うので、人財育成のためにも、貸付方式がほとんどの奨学金制度を、小豆島町が実施しているような給付方式を取り入れてはどうか。また、住居に関してだが、空き家の活用は大事。雇用促進住宅の空き部屋の活用を何か考えられないものか。労働相談を受けている時に思うのだが、従業員と経営者のコミュニケーションが少ないことが原因の場合が多々あるので、幅の広い年齢層の人とコミュニケーションがとれる能力を育むためにも地域活動を通しての三世代交流を根付かせることも大切だと思う。</p>
委員	<p>三世代で同居しているので、幼稚園で保護者と話す機会が多くある。さぬき市も子育て支援施策をたくさんやっていると思うが、ご存じない保護者が結構いる。さぬき市の子育て支援施策を、課を飛び越えて分かりやすいリーフレットなどにとりまとめて、現在子育て中や将来結婚を考えている方に配布する場を作ることも必要。保護者の強い要望として、子どもが安心して遊べる公園を作してほしい、ということがあった。牟礼にある道の駅は子どもが遊べる場所があって平日でも子ども連れの親子がいっぱいいる。さぬき市内にもそういう公園が何か所か欲しいし、夏の暑いときなどには建物の中で遊べる場所もあればいいなと言っていた。若い子育て世代が公園などに集まると、各自治体の子育て支援策を比較しあって情報交換しているので、さぬき市も、そのロコミ力を活用したほうがよい。また、子どもたちの、まちに対する愛着を育てていく必要がある。地域の中で何ができるのかを子どもたちに考えさせて取り組むことができるように学校教育の中に取り入れることも必要と思う。</p>
副座長	<p>農業分野では、高齢化するとどうしても無理な作業がでてくるが、高齢者の作業は農業の基本が含まれている。しかし、そのやり方を若い人に押し付けてはいけなない。規模拡大の1番の問題は、長い間農業を続ける人をいかに確保するか。外国人研修生の活用も大事だが、3年程度で帰る。日本人の中で、農業で食べていきたい人を優先的に育成する取組をしないと農業は潰れる。市内には、有休農地があり、山も海もあ</p>

	<p>る。有害鳥獣の被害で離農する人もいるが、地元の人には行政に甘えている気もする。市外に出て行っても、「やはり地元に戻りたい」と思えるまちにしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>魅力のある街づくりが必要。さぬき市だけで取り組むものには限界があると思う。岡山県でいえば、高梁川流域のまちが連携して地域を活性化させている。さぬき市も、隣接する高松市や三木町、東かがわ市と連携し、広域で、ストーリー性のある観光プランを作っていく必要があるのではないかと。わが行では、旅行会社と協力して中四国の観光プランを作成できるよう、支店のある地域の情報を提供しているところだ。また、外部機関との連携も必要だろう。県・大学などとの連携も深めるべきだ。その中で、地元金融機関としては、高齢化により事業継承が難しくなったところが廃業し、地域経済が縮小しないような対策につながるコーディネート役を務めたい。6次産業を伸ばすことによって1次産業を伸ばす相乗効果を生み出せると思う。いろいろな対策があろうが、まずは、近隣市町との連携からはじめていくことが必要不可欠と思う。</p>
<p>座長</p>	<p>大学に通う学生のことを考えたとき、近隣市町がそれぞれの視点でコミュニティバスを運営していることにより、繋げて乗ることができない。もっと流動できるような、地域を結ぶための、通学に便利なバス路線があればよいと思う。また、大学の中で言えば、学生には、さぬき市に住民登録するよう伝えている。さぬき市民になることで、就職の際、地元企業へのアピールになるのではと思っている。大学の教員は、事業所と学生とのマッチングに長けていないので、商工会等による就業マッチングを一層進めていただきたい。その中で教員も育っていくはずだ。また、地元のことをもっと知るためにもインターンシップも重要と思う。就職を意識した地元意識の醸成を求めたい。若いエネルギーの活用だが、例えば、子どもの食育を推進したいという意識が確立しているのであれば、また、ドラッグの危険性を伝えたいときなどには、薬学部のお兄さん、お姉さんが説明したほうが説得力があると思うので、地域貢献できると思う。神戸・大阪に高速バスですぐに行けるので、そのメリットを生かし、お金の余裕のある、地方暮らしに興味のある高齢者等呼び寄せるため、彼らの知的好奇心をくすぐるストーリー性のあるソフトを作り、あわせて、中長期滞在が可能な施設を整備すると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>さぬき市商工会の会員数は、合併当初が1450、現在は1000まで落ち込んでいる。東かがわ市とさぬき市にまたがる大川法人会の会員数は、合併当時は1500余り、現在は1050。合併して人口が約5000人減ったということで、減り方がひどい。東京などに出て行った学生が、就職の際には地元に戻って来れるという施策が必要で、わが社も情報発信したところ、そこそこの反応がある。そのときの、地元出身の学生の選択の基準は、大学は県外でも就職は県内、である。就職は地元、とは言ってくれないのが現状だ。この対策のためにも、さぬき市でないとできない、よその自治体ではできないような取組をしっかりと考えていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>他県を見てもわかるように、企業誘致は雇用等の成果を生んだ。でも、外来であり、地域経済を育み命運を共にすることはない。結局、自分で独自のものを考え、自前でやらないといけない。さぬき市や県が大企業の誘致を考えても難しいだろうから、考えない方がよい。しかし、ある程度の雇用を創出する必要がある。このとき、無駄になっているものを活用するスモールビジネスを立ち上げると、若い人も取り組みやすいのではないかと。さぬき市でいえば、例えば、牡蠣殻・イノシシ・竹・収集されたごみ・葡萄の搾りかす。肥料・漆喰等の建築材料・ドッグフード・セメントの材料などに再利用できるそう。やっかいものを活かせることを伝えて起業する手助けができればいいのではないかと。また、「ひと」の視点で言えば、高齢者の経験と知識・子ども</p>

	<p>もの若さ・空き公共施設・大学を、有機的につなぎ合わせるとうまくいく気がする。例えば、今行っている「いきいき自主講座」だが、そこで活動している高齢者が、土日は公共施設に集まって、訪れた子ども達に、活動で得た技術を教える。そういうふうに高齢者の力を引き出せば、高齢者の健康と子どものコミュニケーション力を高められるのではないか。公共交通についてだが、高松市の乗合タクシーは、30分おきで停留所にやってくる。タクシーは無線を活用できるので、効率的な運用ができると思う。さぬき市のコミュニティバスの乗車の実情を知りたい。小回りのきくコミュニティタクシーを運行してはどうか。観光についてだが、市や市民が思うPRしたいものと、実際のニーズ、特に外国人観光客が訪れたい場所は違うのではないか。ビッグデータで分析してみるといいと思う。さぬき市は、なんとなく都会でなんとなく田舎だ。これを活用して、年金生活者が市内で贅沢する、遊びに来れる環境づくり、特に、体験活動づくりが必要で、その際には、空き家バンクの活用も重要だろう。</p>
委員	<p>定年後は、さぬき市で暮らしたいと思っている。年金世代が訪れるのも大事だが、子どもを産み、育てる年代が多くなることは必要だ。そのためにも、就労支援や創業支援策を考えたい。先般、新社会人となる大学3年生を対象とした、就職や経済を学ぶセミナーを開催した。様々な創業者にもお越しいただき、地元企業の方とも話し合える機会を作った。大変有意義であった。学生が市内で就職したいと思ったときに役立つように、OBや商工会なども巻き込んだ、ライフサイクルセミナーなども必要だろう。移住促進策としては、移住者に対して厳しい金融面での優遇支援も必要だと思う。産学官の連携は大事。金融機関も協力する。</p>
委員	<p>雇用政策の立場から言うと、基本的な考え方として、地域産業をどうやって興していくのか、市のビジョンを出してほしい。それに基づき、国の様々な補助金メニューをどんどん使ってほしい。創業支援としては、新しい労働者の確保のための人材マッチングに協力していきたい。魅力ある仕事場づくりがますます重要だろう。それは、若者がいきいきと働ける職場をつくること。そして、地元企業の情報を学生があまり知らないことを実感するので、1人でも多くの人が地元で就職できるように全力でPRしていきたい。先ほど発言があったが、離職率が高い。市内の事業所では離職しない働き甲斐のある企業づくりを進めるお手伝いをしたい。働く意欲のある地域の女性や高齢者、障害者の労働力を活用するためにも、ワークライフバランスを実践できる企業が多い土壌を、企業とともに作っていく必要があると思う。</p>
委員	<p>生き残っていくためには、PRしていくことが大事で、そのためには人材育成が不可欠だと思う。会社で考えたとき、中身があるものでないと発信できないと思うので、まずは、働く人が自分の会社を誇りに思い、働くことに喜びを感じられるような場を会社の中で作ることが大事だろう。前向きな社員が集まると、どんなことができるのかを話すようになる。それをまとめる責任のある立場に女性を登用している。パートの社員登用制度も始めた。若い人の定住も課題だ。新入社員が1人や2人のときは、辞めていくケースが多かった。今年は10社余りの関係会社で集まって、入社式と新人研修を合同で行った。その際には、いろんな会社を混ぜてグループを作り交流しながら課題を解決していく取組を進めた。魚のことを広く発信しながら地域活性化につなげていきたいので、漁協との協力も大事、小学生の社会見学は社員全員で受け入れる体制を作り、瀬戸内の魚のおいしさを伝えている。外国人観光客に向けてツイッターなどで情報発信し、その場所に來させる取組も目指したい。先週、関東からの移住者が面接に來た。県西部を希望されていたようだが、さぬき市役所のお世話になったことをきっかけに移住してきたと言うことで、私も市の取組に気づいたし、移住を応援するつもりで採用した。地域の若者を地域で育てて情報発信し、地域に根付かせる</p>

座長	<p>取組を市の事業にできればいいのではないかと思った。</p> <p>長時間になったが、副市長、感想などを一言願います。</p>
副市長	<p>さぬき市に対する熱い思いを聞くことができた。これから取り組んでいけるようなヒントも聞くことができた。現実のものにしていくためにも、これからも政策課にそれぞれ意見を届けながら議論いただきたい。</p>
座長	<p>今日の内容については、事務局がまとめて発信します。事務局、事務連絡をお願いします。</p>
事務局	<p>5月中旬頃に、先ほど説明したアンケート等を送付する予定としますので、その旨のみ連絡しておきます。時間の関係で、それ以外のことは、随時メールなどで連絡する。</p>
座長	<p>以上で第1回目の有識者会議を終了する。</p>

< 閉 会 > ( 12:10 )